

新潟本社行動計画の取り組み状況について



2018年11月15日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

目次

1. 安全性向上の取り組み
2. 運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み
 - ① 柏崎市内に防災・避難支援専門要員が常駐
 - ② 緊急時の初動体制
4. 地域貢献の取り組み
 - ① 「大地の芸術祭」への協力 **update**
 - ② 地域行事への参加 **update**
5. 傾聴と対話の取り組み
 - ① 全戸訪問 **update**
 - ② 東京電力コミュニケーションブース **update**
 - ③ 地域の皆さまへの説明会
 - ④ トークサロン **update**
 - ⑤ 発電所視察対応 **update**
 - ⑥ 広告 **update**

1. 安全性向上の取り組み

概要

- 「安全意識」「技術力」「対話力」を向上させるため、原子力安全改革プランを実行
- 新規規制基準適合性審査（以下、審査）への真摯な対応
- 福島第一原子力発電所事故の反省を踏まえた安全対策の着実な実施
※個別具体的な取り組み状況について、原子力安全改革プラン進捗報告にて定期的に報告

主な取り組み

<事故を防ぐ>

- 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえた、自主的な安全対策を実施
- 綿密な断層調査による活動性評価及び保守的な基準地震動の策定
- 厳格な審査を通じた、更なる安全性向上と継続的な改善



<止める（事故対応の技術的能力の向上）>

- 事故対応時に迅速・的確な意志決定が図られるよう、米国などの緊急時対応体制である、ICS（災害時現場指揮システム）の考え方を導入
- 過酷な状況を想定し、さまざまなシナリオによる訓練を継続的に実施し、技術的能力を向上



1. 安全性向上の取り組み

主な取り組み

<冷やす>

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、消防車や大容量送水車の配備等、冷やす機能を多様化、多重化



<放射性物質を閉じ込める・減らす>

- 既存の除熱システムに加えて、圧力容器と格納容器内の除熱が可能な「新除熱システム」を開発し設置
審査では、フィルタベントと同等以上の効果があり、ベントに優先して使用すべき設備として評価され、他のBWRプラントにも設置を義務付け
- 万が一のベントに備え、放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置



1. 安全性向上の取り組み

＜災害対策支援拠点の整備＞

- 原子力発電所の災害対策（事故の収束や拡大防止）を支援するため、必要な資機材を保管・調達し、発電所へ送り出したり、対応要員の往來を管理するための拠点
- 現在、当社では、柏崎エネルギーホール、信濃川電力所、当間高原リゾートの3拠点を整備
- 上記に加え、発電所から北東方向の出雲崎町にも支援拠点を整備し、多重化することで、支援活動の強化を図る（整備完了目標は2020年1月頃を予定）



概要

- 新潟本社の設置
- 原子力事業の社内カンパニー化を予定
- 新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力

主な取り組み

- 2015年4月新潟本社設立
 - 柏崎刈羽地域での説明会や県内全域における対面でのご説明
 - 柏崎刈羽原子力発電所などの当社施設の見学機会の拡大・強化
 - 関係自治体等とご相談し、原子力防災の充実や実効性ある避難支援策の策定に向けた検討・実施
 - 新潟本社行動計画「まもる・そなえる・こたえる」を策定し、活動拠点として、柏崎市内に、フリーアドレスを導入した「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設。
- 社内カンパニー設置に向けた、保安規定の変更申請を2018年11月中に実施予定
 - 新潟においては、新潟県の皆さまとのコミュニケーションと柏崎刈羽原子力発電所の運営を一体的に進められる体制とし、地元本位の事業運営体制を構築予定

<まもる・そなえる・こたえるオフィス>



主な取り組み

<3つの検証へのご協力>

新潟県の皆さまの安全・安心のためにも、新潟県が進めている検証作業は重要な事であると考えており、最大限のご協力をさせていただきます。

■新潟県技術委員会へのご説明

○発電所視察を含め、これまでに34回実施

- ・10月31日 福島事故時の事故時操作手順書に基づく対応に関する委員の皆さまからのご質問に回答

○福島事故検証課題別ディスカッションへのご説明は34回実施

- ・9月12日 福島第一原子力発電所1号機の非常用電源喪失の原因に関する委員の皆さまからのご質問に回答

■新潟県避難委員会へのご説明

○発電所視察を含め、これまでに2回実施

- ・9月10日 「事業者からの情報発信」と「フィルタベント」について、発電所視察（3月27日）後に委員の皆さまからいただいたご質問にお答えする形で説明

3. 防災支援の取り組み ① 柏崎市内に防災・避難支援専門要員が常駐

- 2018年4月に「避難支援チーム」の活動の本拠を、現在の新潟市内から、柏崎市内に開設する「まもる・そなえる・こたえる」オフィスへ移転し、防災や避難支援業務を専門とする社員14名が常駐

「避難支援チーム」の活動の本拠を柏崎市内へ移転

「まもる・そなえる・こたえる」
オフィス（柏崎市内）



新潟本部
（新潟市内）

2018年4月に「避難支援チーム」の活動の本拠を新潟市内から柏崎市内に移転

UPZ (30km圏内)

柏崎刈羽原子力発電所 ◎PAZ (5km圏内)
◎オフサイトセンター

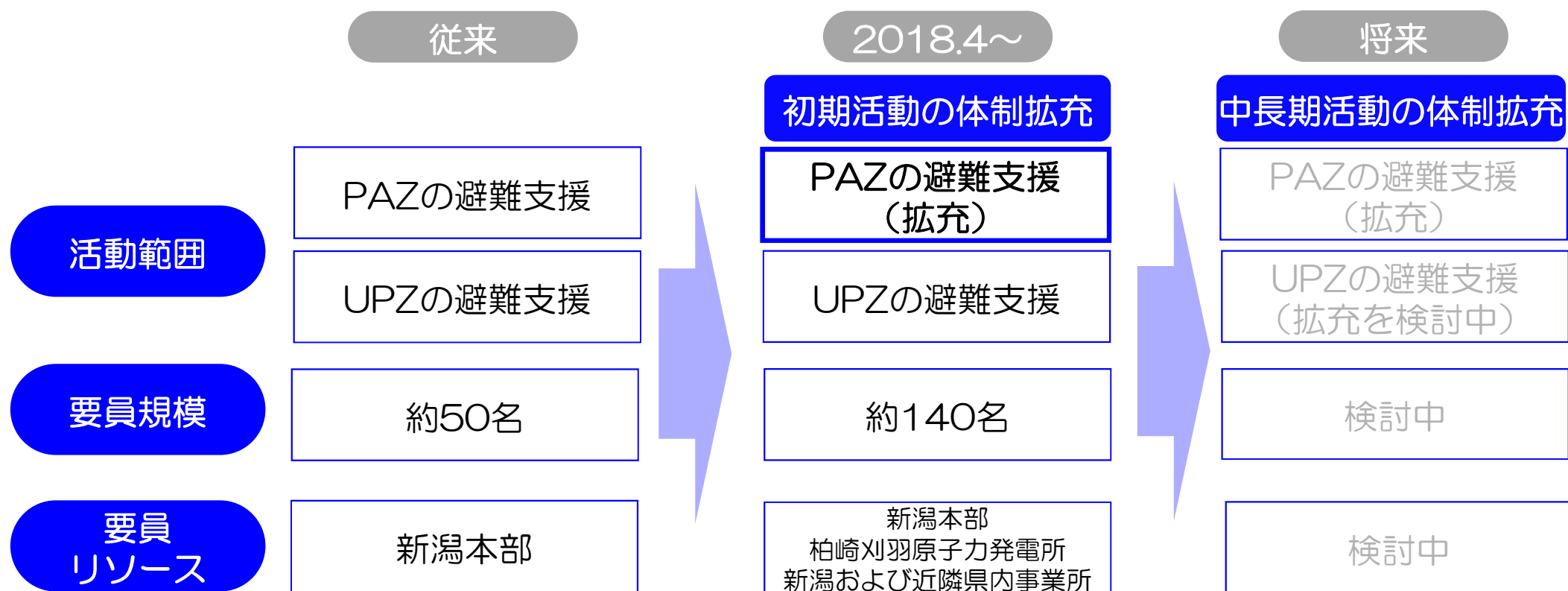
14名が常駐(2018年4月～) ※

※2018年7月より、上越・中越エリアで地域対応を行う社員29名が新たに常駐

3. 防災支援の取り組み ② 緊急時の初動体制（1/2）

- 2016年10月より、新潟本部の社員約50名を初動要員とする体制で運用を開始した「避難支援チーム」について、2018年4月1日から、新潟本部、柏崎刈羽原子力発電所、新潟県および近隣県内事業所との協働体制を確立することにより、初動要員を約140名体制へと増員
- これにより、概ね5km圏内(PAZ)の避難支援を行う初期活動の体制を拡充
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動の体制の拡充についても検討中

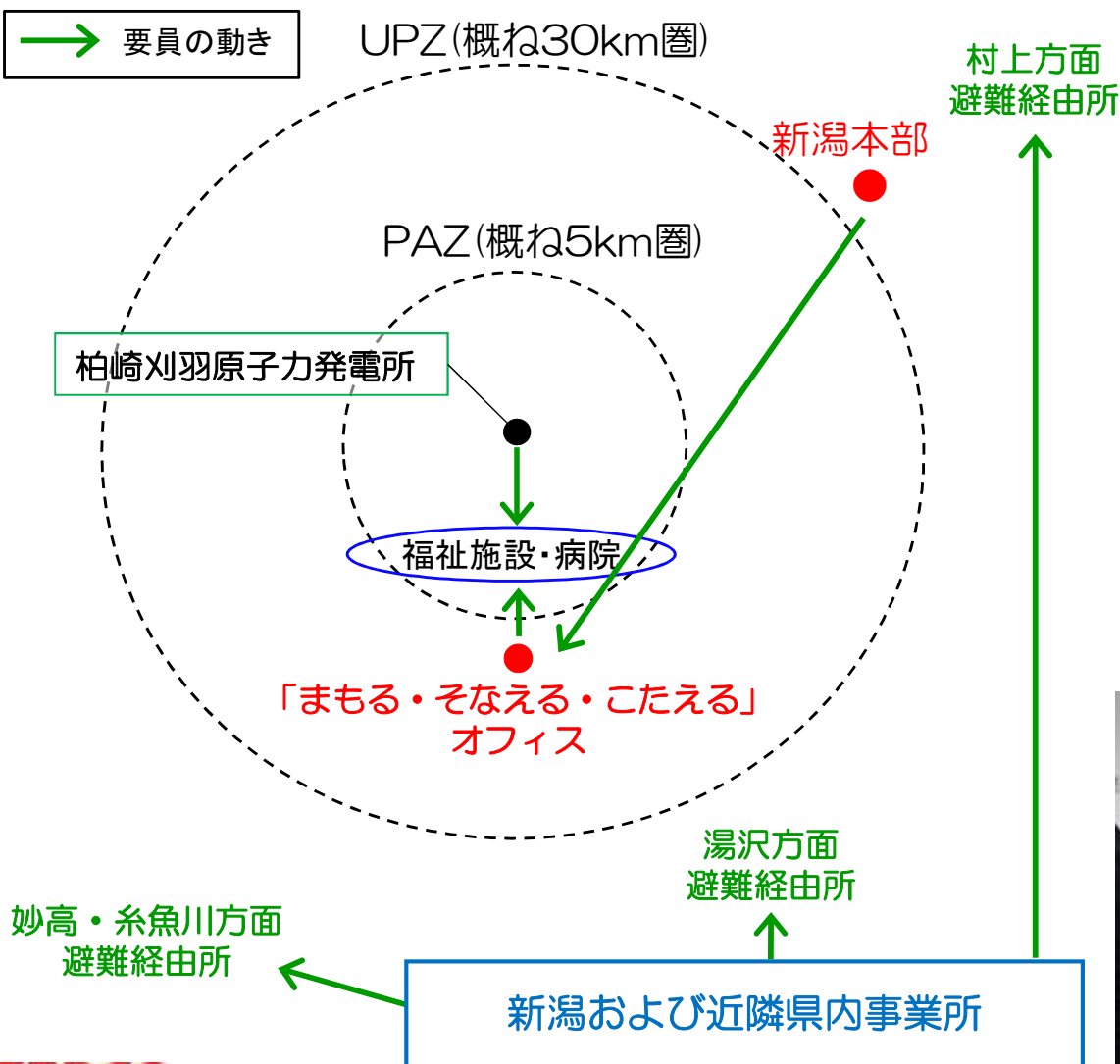
「避難支援チーム」の増強（緊急時）



3. 防災支援の取り組み ② 緊急時の初動体制 (2/2)

緊急時における初期活動(PAZの避難支援)の体制

- 約140名による初期活動の体制に拡充
- 今後、訓練を重ねてクイック&パワーアップを実現



	活動内容	要員 リソース
初期活動	①介護を必要とされる方々の避難支援 (福祉車両・バス等の運転、移動介助)	新潟本部、 柏崎刈羽 原子力発電所
	②福祉施設・病院 (屋内退避施設)の運営支援 (介護補助、物資補給)	
	③PAZ避難経路所の運営支援 (開設、案内・介助、車両誘導)	新潟および 近隣県内 事業所



■ 現代アートの祭典「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018」に協力

■ 協力内容は以下の通り

- ① 「土石流のモニュメント」制作
- ② 「サイフォン導水のモニュメント」概要説明
- ③ 「大地の芸術祭と信濃川発電所見学特別ツアー」の協力
- ④ モニュメント撤去後の片づけ

① 「土石流モニュメント」制作に協力



地域の皆さまと砂防ダムの
「土石流モニュメント」制作
(ポール立て)に協力

2018/7/8 計12名

② 「サイフォン導水のモニュメント」概要説明



2018/8/30、9/6、9/12 計6名

③当間高原リゾートベルナティオとコラボした「大地の芸術祭と信濃川発電所見学特別ツアー」に協力



【日程】 ＊ロビー集合 8:50

◆ご出発日 8月11(土)、12(日)、13(月)、14(火)、15(水)
16(木)、17(金)、18(土)、19(日)、20(月)
21(火)、22(水)、23(木)

◆旅行代金 1,000円(税込1,080円)

◆募集人員 37名様(最少催行人員 2名)

◆旅行代金に含まれるもの
ホテルからの交通費、旅行保険代
芸術作品鑑賞代

ホテル出発 (9:00)

↓

サイフォン導入のモニュメント
土石流のモニュメント

↓

信濃川発電所
※東電電力様の協力で施設内を見学します

↓

津南町、旧三箇小学校(休憩所)
※冷たい清流の天然水や冷コーヒー無料で一息入れましょう

↓

四季彩館ベジパーク
※地元産が育む新鮮野菜が並ぶ販売所です

↓

越後水沢駅前、ジミーリオ作品
※有名な絵本作家が描いた世界をモチーフにした作品です

↓

ホテル到着 (12:30)

あては高原リゾート
ベルナティオ

ご予約・お問い合わせ
〒949-8526 新潟県十日町市珠川 TEL.025-758-4888(代表) FAX.025-4848 写真(2)はイメージです
＊ベルナティオホームページ＊ www.belnatio.com



④モニュメント撤去後の片づけ



2018/8/11~8/23の13日間 計52名

2018/9/27 計6名

<6/25～8/31の実績>

地域行事	実施日	作業内容	参加者数
湯沢みどりの会ブナ植樹	2018/6/25	湯沢学園生徒が植樹するための穴掘り手伝い	4名
魚野川河川清掃	2018/7/8	河川清掃	3名
中津川運動公園草刈り	2018/7/11	除草	13名
第39回津南まつり	2018/7/21	イベントのお手伝い	5名
第22回さつき工房ふれあいまつり	2018/7/27	イベントのお手伝い	3名
ぎおん柏崎まつり海の花火大会	2018/7/27	海岸およびみなとまち海浜公園周辺の大会翌日のゴミ拾い	23名
小千谷こども元気フェスティバル	2018/7/28	模型を使った発電の実験	2名
長岡花火大会	2018/8/3	花火大会会場の清掃活動	10名
グルっとまるごと栄村100kmサイクリング	2018/8/5	イベントのお手伝い	6名
三条夏祭り	2018/8/5	祭り終了後の清掃活動	7名
おぢやまつり	2018/8/25	花火大会実行委員会のお手伝い	5名

<9/1～11/14の実績>

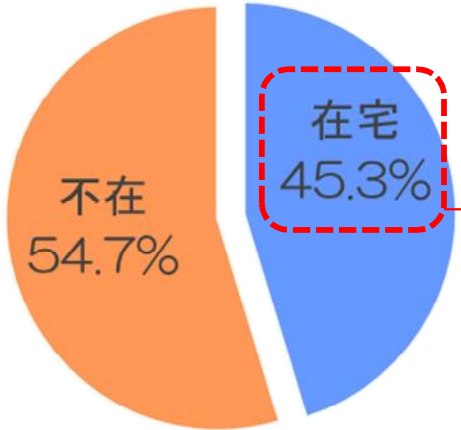
地域行事	実施日	作業内容	参加者数
段丘さくら草刈り	2018/9/7	除草	4名
柏崎刈羽中学校駅伝競走大会	2018/9/21	駅伝競走大会の運営のお手伝い	7名
栄村夢灯	2018/9/22、23	イベントのお手伝い	8名
ながおか縄文の丘マラソン	2018/9/24	マラソン大会の運営のお手伝い	10名
湯沢秋桜ハーフマラソン	2018/9/30	マラソン大会の運営のお手伝い	12名
第17回むらかみ宵の竹灯籠まつり	2018/10/6	イベントのお手伝い	6名
魚野川河川清掃	2018/10/7	河川清掃	3名
第41回小千谷トリム・ウォーキング大会	2018/10/8	イベントのお手伝い	4名
たんねのあかり	2018/10/13	イベントのお手伝い	2名
刈羽さわやかマラソン	2018/10/14	マラソン大会の運営のお手伝い	9名
柏崎マラソン	2018/10/28	マラソン大会の運営のお手伝い	19名
魚沼コシヒカリマラソン	2018/11/11	マラソン大会の運営のお手伝い	3名

5. 傾聴と対話の取り組み ① 全戸訪問 (1/2)

- 地域の皆さまとの対話活動により、いただいた声を新潟本社の具体的な取り組みに反映していくため、本年8月より柏崎市・刈羽村の全戸訪問を実施。
- 一人でも多くの声をいただきたい思いから、当初予定していた訪問期間（10月末）を12月2日まで延長し、可能な限りご不在であったお宅の再訪問を実施中。
- 10月末までの訪問実績は以下の通り。

実績

訪問状況	
在宅	16,539
不在	19,986
空き家等	9,403
合計	45,928



お会いできた方の性別・年代

A donut chart showing the gender and age distribution of those visited. The outer ring represents gender: 女性 (Female) in orange and 男性 (Male) in blue. The inner ring represents age groups: ~20代 (light blue), 30代 (orange), 40代 (grey), 50代 (yellow), 60代 (dark blue), and 70代 (green).

発電所に対する不安 n=10,454

A pie chart showing the reasons for anxiety about power plants. The segments are: 不安を感じる (Feeling anxious) at 46%, 不安はない (No anxiety) at 32%, and どちらともいえない (Don't know) at 22%. A callout box points to the 46% segment with the text: 不安の背景にあるお気持ちを「傾聴」 (Listening to the feelings behind the anxiety).

不安の理由

A bar chart showing the reasons for anxiety. The x-axis categories are: 万一の事故 (Accident), 福島事故があったから (Because of the Fukushima accident), 避難行動 (Evacuation), 漠然とした不安 (Vague anxiety), 企業体質 (Corporate culture), テロ (Terrorism), and その他 (Others). The y-axis shows percentages from 0% to 70%.

※複数あてはまる場合もあるため、合計が100%を上回る
 ※対面時の印象・感触による

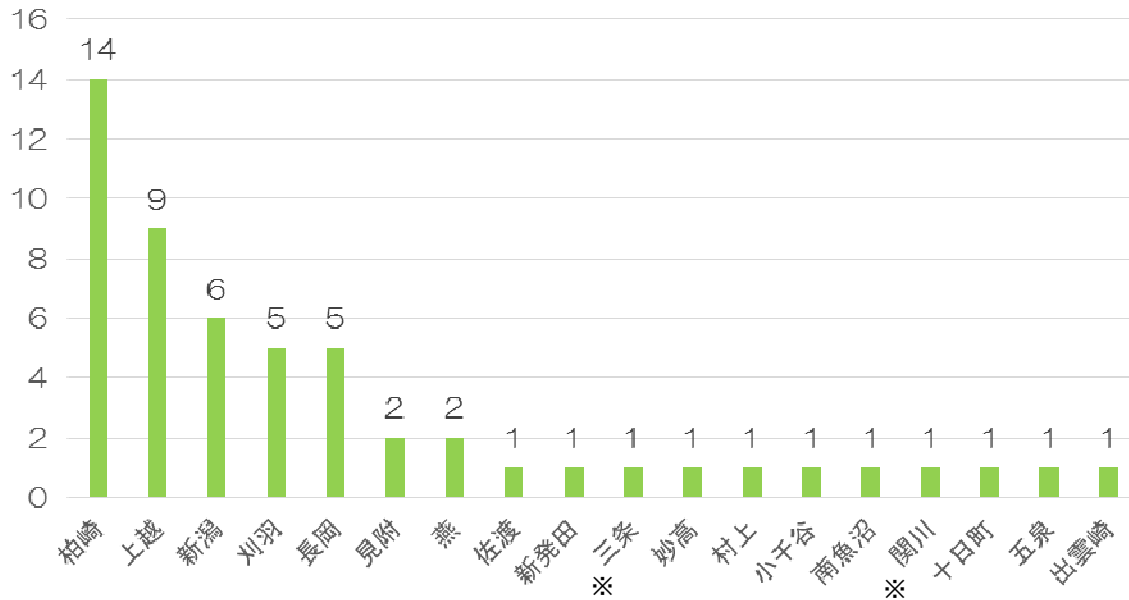
■ 2018年度の全戸訪問においていただいた主な声は以下の通り。

声の分類	件数	内容
再稼働	1,846件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域経済の事を考えると稼働して欲しい反面で、福島事故の事を考えるとやはり反対。 ・ ある設備は利用しながら、再生可能エネルギーに切り替えていくべき。 ・ 柏崎市活性化のために、安全第一で再稼働に取り組んでほしい。
安全対策	1,392件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震や台風など、想定外の災害を考えると不安。事故だけは起こさないでほしい。 ・ 設備を整えるだけでなく、訓練も重ねてほしい。
広聴広報活動	669件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報は、隠さずに早く公開してほしい。 ・ 全戸訪問を通じ、地域の声を聴くのは良いこと。 ・ 専門用語が多く、分かりにくい。安心を伝えられるよう努力すべき。
避難計画	616件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が多い地域。雪の季節に、避難場所まで行けるか分からない。 ・ どこに避難したらよいか分からず不安。
組織経営	458件	<ul style="list-style-type: none"> ・ トラブルが続くと東電に管理能力があるのか疑問に思う。 ・ 協力企業に丸投げにせず社員がしっかり対応できる力を身に着けるべき。
その他	3,257件	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは福島への責任をしっかりと果たすべき。 ・ 原子力だけではなく、エネルギー全体の議論が必要。 ・ 地域活性化のために、頑張ってもらいたい。

実施内容

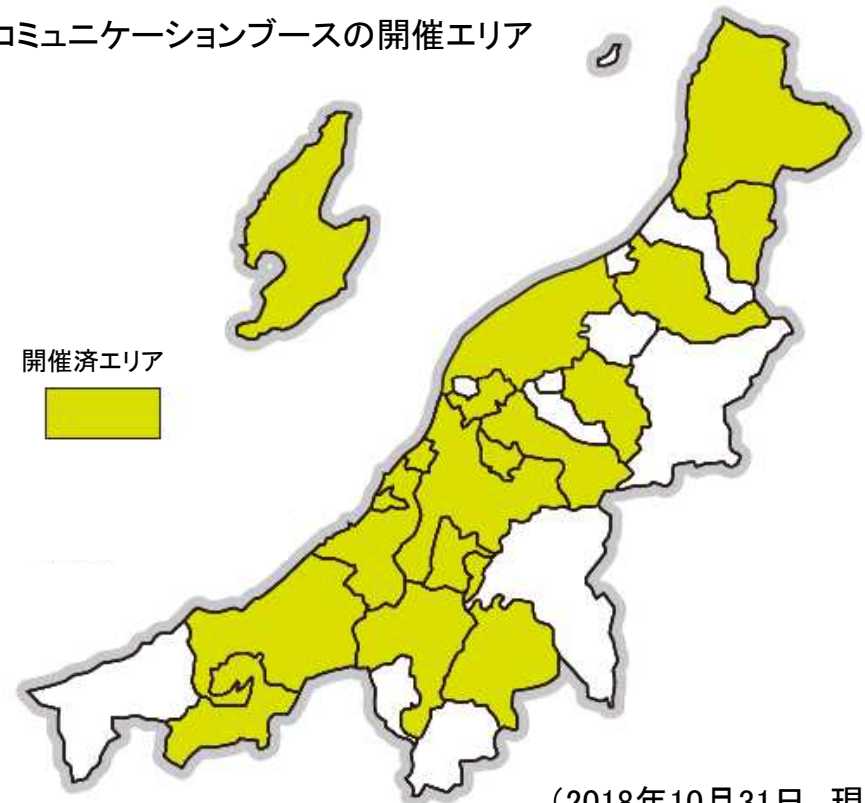
■ 新潟県内において「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、皆さまからのご意見をお伺いするとともに、6・7号機の原子炉設置変更許可に関するご説明を実施しております。また、パネル展示等を通じて発電所で講じている安全対策や放射線など原子力発電全般に関する質問にお答えするとともに、さまざまな「声」をお聴きしております。

開催回数(合計52回)



※2つの市町村を対象として「声」をお聴きしているブースがあるため、開催回数とグラフの合計値は異なります。

コミュニケーションブースの開催エリア



(2018年10月31日 現在)

<前回会見以降 (6/25) の実績>

開催エリア	開催場所	開催日	来場者数
燕市 (※三条市)	イオン県央店	2018/7/13~7/17	405名
十日町市	川西商工会館	2018/7/23~7/27	244名
上越市大島区	大島ゆきわり荘 多目的ホール	2018/7/29~7/30	112名
妙高市	新井ショッピングセンター コア	2018/9/13~9/17	480名
新潟市西区	アピタ新潟西店	2018/11/15~11/19	開催中

※2つの市を対象として実施

- 東京電力コミュニケーションブースではパネルや模型の展示を通して、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策等に対するご質問にお答えしております。また、VR（バーチャルリアリティ）を活用して、臨場感ある映像で発電所にいるような体験もさせていただいております。
- これまでに52回開催し、累計9,922人の方にお越しいただき、多くの「声」をお聴きしました。

東京電力コミュニケーションブースでの様子

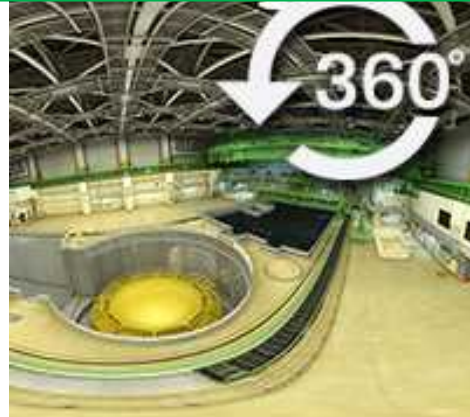
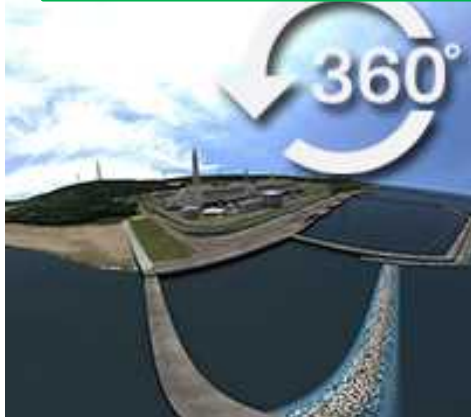


2018.7.13~7.17 イオン県央ブース



2018.7.30~7.31 上越市大島区ブース

発電所俯瞰・原子炉建屋内部・消防ポンプ車等をご紹介するVR



5. 傾聴と対話の取り組み ③ 地域の皆さまへの説明会

- 柏崎市と刈羽村において、地域の皆さまからのご意見を伺い、発電所の状況や当社の取り組みをお伝えする貴重な場として「地域の皆さまへの説明会」を実施しております。

開催実績（新潟本社設立以降）

日時	場所	参加者数
2015/6/8	刈羽村生涯学習センター ラピカ	64名
2015/6/9	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/21	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/22	刈羽村農村環境改善センター	44名
2016/9/13	柏崎市市民プラザ	79名
2016/9/14	刈羽村 高町地区集会場	24名
2018/1/30	柏崎市産業文化会館	98名
2018/1/31	刈羽村生涯学習センター ラピカ	52名



5. 傾聴と対話の取り組み ④ トークサロン

- 柏崎刈羽原子力発電所の立地地域にお住まいの女性や子育てをされている方々を対象として、年間を通してトークサロンやカルチャー教室を実施しております。
- 発電所の取り組みをお伝えするとともに、立地地域の皆さまと新潟本社職員との対話活動を実施しております。

開催実績（2018年度）

時期	場所	主な内容	参加者数
2018.4	・ 柏崎市市民プラザ	・ トークサロン ・ 料理教室	45名
2018.5	・ 柏崎エネルギーホール	・ トークサロン ・ 工作教室	47名
2018.7	・ 柏崎刈羽原子力発電所 （ビジターズハウス）	・ トークサロン ・ 工作教室	86名
2018.9	・ 柏崎エネルギーホール	・ トークサロン ・ 工作教室	22名
2018.9	・ 柏崎市市民プラザ	・ トークサロン ・ 料理教室	40名
2018.11	・ 柏崎エネルギーホール	・ トークサロン ・ 工作教室	24名



トークサロン

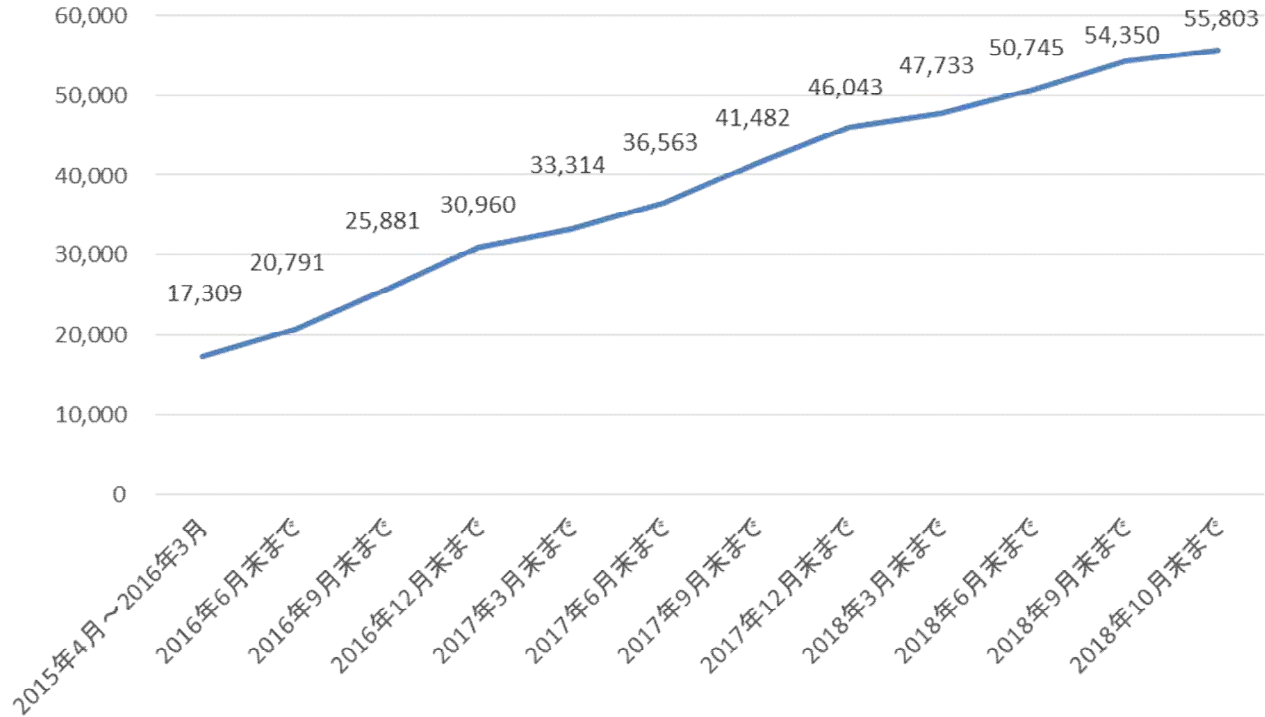


カルチャー教室

5. 傾聴と対話の取り組み ⑤ 発電所視察対応

- 新潟県内をはじめ、より多くの皆さまに福島第一原子力発電所の事故を踏まえた安全対策をご覧いただくため、柏崎刈羽原子力発電所をご視察いただいております。

発電所視察数(累計)



【防潮堤（5～7号機側）】



【電源車】



5. 傾聴と対話の取り組み ⑥ 広告

■ 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所で講じている安全対策や当社の取り組み等を、新潟県内の一人でも多くの皆さまにお伝えするため、各メディアを通じた広告を実施しております。

- トラブルを含む情報の発信ツールとして、「東京電力通信」を発行。
- 新潟県内のテレビ各局、ラジオ各局において柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の状況をお伝えするCMの放送を実施。
- 発電所で働く所員の思いや決意を伝える広告を新潟県内限定でテレビやラジオCM、雑誌や新聞広告に展開。
- 幅広い層に興味を持っていただくため、ライトなコンテンツとして「KKTV」を作成し、当社ホームページ等で動画配信。



<KKTV>

TEPCO 東京電力通信 第6号 2018年7月発行

今回のお知らせ

- 新潟本社行動計画「まもる・そなえる・こたえる」
- 避難支援機能の拡充
- 新潟県内各地で実施している広報・広報活動
- 液状化対策を命に耐震強化工事

新潟本社行動計画「まもる・そなえる・こたえる」

当社は今年3月、前掲の柏崎刈羽原子力発電所の立地地域をはじめとする新潟県の皆さまの安全に最大限の配慮をこたえ、地域に貢献した企業となるための基本姿勢をお示しする新潟本社行動計画「まもる・そなえる・こたえる」(以下、「行動計画」)を策定しました。この行動計画では、「まもる・そなえる・こたえる」という基本理念のもとで、「安全・格上」「避難体制の確立」「防災支援」「地域貢献」「顧客と対話」という5つの項目に対する単体の取組をお示ししています。これら5つの基本姿勢に基づき(各項目の一環として、立地地域の皆さまのご意見やご意見を伺うための「まもる・そなえる・こたえる」を開設しました。)

当社はこの行動計画に基づき、皆さまから頂いた「声」をしっかりとお聞きし、具体的な取り組み一つひとつに反映していきます。

私たちは、世界最高水準の原子力安全対策のため、不断の安全対策を継続していきます。

私たちは、万一の原子力事故に備え、避難支援と連携しながら避難支援の取り組みを充実していきます。

私たちは、立地地域をはじめとした皆さまからの「声」をお聞きし、皆さまの取り組みに反映していきます。

行動計画は、ホームページでご覧いただけます。

新潟本社行動計画のロゴマークと基本理念

「まもる・そなえる・こたえる」オフィス
新潟県新潟市東区2-2-41 Uビル1階
電話番号：0257-37-6250

避難支援機能の拡充

「避難支援チーム」の拠点も新潟県内に設けました

万一の原子力災害発生時に、おける地域の皆さまの避難等に際する支援を行う、常設的として、平成28年10月、「避難支援チーム」を創設しました。これまで新潟県内に不備を留めていたが、災害発生時の遅やかな対応はもたらぬこと、避難経路や避難場所の確保から避難ご意見を伺う機会を増やして避難支援等に際する活動に貢献する事を目的に、柏崎県内の「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設しました。

広報活動の拡充に向けて、職員を増強しました

より広範囲な避難支援を可能とするために、柏崎県内に駐在している職員だけでなく、立地地域に所在する18の事務所からも緊急時の初動職員を抽出することし、避難支援チームを約140名体制へ増強しました。

皆さまとの対話を通じてご意見やご不安の「声」を真摯に受け止め、当社の防災や避難支援の取り組みに反映してまいります

<東京電力通信>